

習字心得

國語指導

初編

K110.71  
20

B|23

280|2



習字ノ心得

三橋述

初編

267  
5  
317

函架號	大日本教育會館		東 新 七
	第 四 室	三 九	
	一 冊	號 架	函

K110,71  
20  
457

習字ノ心得

出三橋述

書ハ聖人モ之ヲ六藝ノ中ニ列シ貴賤上  
下ノ別ナク幼年ノ時ヨリ之ヲ學ハシム  
其法漢魏晉唐以來百家ノ說各異同  
アリト雖モ畢竟懸腕直筆ノ外ニ出テス

懸腕

直筆

自持

スレハ

篆隸

楷行

其他

諸

書

スル

能ハ

サ

ル

子

學

ニ

志

ス

レ

モ

ノ

懸腕

功

久

シ

テ

而

シ

習字ノ心得

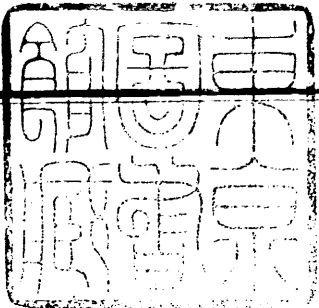
一

ヲ覺ユ黃山谷云ク執筆ノ妙第四指ニア  
リト余初メ日夜工夫ヲ凝テシ管ヲ執ルト  
イヘトモ其妙ノ第四指ニ在ルヲ解スル能  
ハス熱心ノ欠レキ一旦之ヲ叙法上ニ悟ル  
テアリル後其悟ル所ニ依リ管ヲ執ルニ  
愈久シクシテ愈其妙ヲ覺ユ夫レ第四指ハ  
即チカ指ナリ凡ソ人ノ腕力ヲ用ユルモノ  
必ス第四指ヲ以テ主トセザルナレ射者  
ノ弓ヲ櫛リ御者ノ索ヲ執ルカ如シ殊ニ  
書ハ腕力ヲ以テ主トナス故ニ古今筆

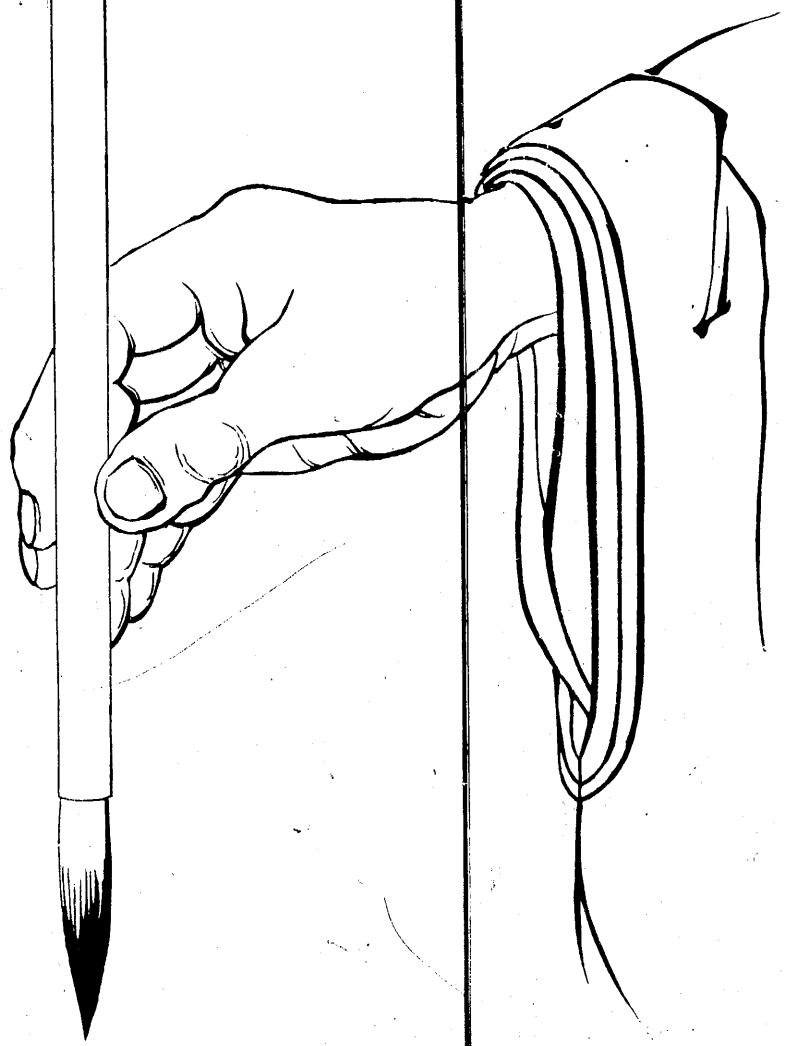
力ヲ論スル或ハ本ニ入ルトイヒ或ハ紙背ニ  
透ルト云皆懸腕直筆ヲ要ス懸腕直筆  
ヲ要スルハ即チ腕力ヲ筆ニ入レントヲ  
欲スル好以ニシテ其要ハ則チ第四指ヲ  
以テ主トスルニアルナリ今余カ曾テ實驗  
スル所ニシテ其如學ノ心得ニナルヘキモ  
ノ二三ヲ取り以テ左ニ示ス

第一則

書ニ臨ンテハ第一心ヲ正シクシ第二身体ヲ正  
シクシ第三几席ヲ正シクシ第四筆研墨紙



正シクシテ第五懸腕直筆ヲ正シクシテ  
 其書体ハ先大楷ヲ學ビ方ニ寸ヨリ方三四寸ヲ云之ヲ學  
 匕得テ後行草其他ニ及フヘシ  
 懸腕直筆ノ圖



書法大成卷之三  
 三

第二則

凡ソ字ヲ作ル手中筆アルヲ忘レ唯第四  
指ヲ以テ書スルカ如クシ而シテ序破急ノ  
運用ヲ覺得レハ所謂本ニ入り紙背ニ透  
リ至妙言フ可ラザルノ筆意ヲ見ハス者  
ナリ頃日向好相會シ共ニ之ヲ研窮スル  
ニ兒女子ノ中頗ル筆力人ヲ驚カスモラ  
アリ以テ此法ノ効アルヲ證スヘキナリ

第三則

古人ノ書ヲ臨スルニモ懸腕直筆并ニ序  
破急ノ運用ヲ覺ヘ得ルヲ主トス若シ此法  
ヲ曉ラスシテ徒ラニ其筆意結構ヲ擬  
セントスルハ無益ノ業ナリ凡ソ書ヲ臨  
スルニハ必ス法帖ヲ正面ニ置キ端坐ニ  
對シ管端ヲシテ正シク我鼻端ニ當ラレ  
メ其紙ニ落スニ及ンテハ前後左右進退  
屈伸俾ト筆ト一体ナラシメテ始メテ  
其功ヲ得ヘキナリ余世人ノ書ヲ臨ス  
ル者ヲ見ルニ多クハ法帖ヲ左ニ置キ我  
カ書スル紙ヲ右ニ置キ左視右顧心違ヒ

作動ク將夕安シリ其筆意ヲ擬スルヲ  
得ンヤ

第四則

筆ハ毛剛ハクシテ鋒長キヲ好トス明以  
後ノ書多クハ羊毫ニシテ鋒短カキヲ  
用エ故ニ字形神カナク所謂墨豬ナル  
モノ多シ此ノ如クナレハ縱令懸腕直筆ヲ  
習熟スルモ毫ト腕ト相稱フヲ能ハス其  
筆ヲ下スヤ衆毛錯雜筆路擾乱字形意  
ノ如キヲ得ス宋元以上ノ書ヲ觀テ以テ  
古人ノ剛毛ヲ用ヒタルヲ知ルヘキナリ

第五則

法帖ハ尤モ其正シキモノヲ撰ヒテ之ヲ學フ  
ヘシ近來我邦俗流ヲ一變シ好事皆古  
法帖ニ著目ス亦昭代ノ一美事ナリ然  
レモ古法帖亦其最モ正シキモノヲ撰ハ  
サルヘカラス晋唐以後諸名家ノ書ト雖  
モ年代ノ久シキ字形神力與ニ消滅ス  
ルモノ多シ初學ノ徒輒シ可否ヲ辨スル  
能ハス故ニ必ス古法帖ニ限ラス苟モ真

跡ノ正シキモノアレハ四五字ニテモ善ク之ヲ習熟スヘシ然ル片ハ他ノ字ハ自然ニ書シ得ラル、モノナリ

習字上心得ヘキモノ數多アリト雖モ右五則ハ尤モ其要領ナルモノニテ一モ缺ク可ラザル所ナリ蓋シ書ノ上達シカタクキハ古人モ往々之ヲ論セリ然レモ其上達シ難キヨリ其功半ニ及ハスレテ遂ニ廢スルハ是皆自棄スルモノナリ志ヲ立テ詎勉撓マサルトキハ豈ニ上達セサルノ理アラシヤ其達スルト達セザルトハ唯自己ノ勉強ト否セザルトニ由ルノミ語ニ云ク泰山ノ雷ハ石ヲ穿テ彈極ノ統ハ幹ヲ断ツ又云ク精神一到何事カ成ラザラン學者夫レ旃ヲ勉メヨ



明治十四年五月七日板權免許



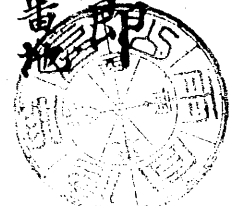
著者

山口縣士族

岡守

著

東京麹町元園町丁目廿六番地



出版人

東京府平民

石塚徳次郎



東京麹町三丁目十九番地